



# 平塚ロータリークラブ 週報

Hiratsuka R.C. Weekly

3263 号 臨時号



1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

## 下期情報集会報告会 テーマ「緊急事態時におけるクラブのあり方」

### 赤グループ

グループ幹事：丸茂淳 副幹事：秋山智  
清水 裕／鳥山優子／森 誠司／江藤博一／成瀬正夫／  
大澤一仁／清水雅広／小野 学／高橋賢二

「緊急事態」について原因は様々なものが想定されますが、今回は「新型コロナウイルス感染拡大の事態」に対してどう対応すべきかということでもとめさせていただきました。

#### 1) クラブ例会の運営方法

現在の例会は3蜜の要件に該当してしまい現状のままだと開催が難しい状況であり、その解決策として以下の意見をいただきました。

- ・リモートで行う
- ・少人数で例会運営を行う  
(何班かに分けて隔週で出席等)

しかし、いずれにしても例会の参加機会における公平、公正さという面からは課題が残るというご意見をいただきました。ただ、緊急事態の時には何かにチャレンジしないと道は開けない、固定観念にとらわれることなくアイデアを出し合いたい、なにがしかの形で会員相互が繋がりを持つことが大切であるというご意見もいただきました。あと、週報はどんな形で発行していただきたかったというご意見もいただきました。

・「リモート」については地区の委員会等が ZOOM の方向で動いているので例会も ZOOM で行うことを検討してもよいのではないのでしょうか。携帯電話が一気に普及し皆が使うようになったように ZOOM も誰しもができる時代が今回をきっかけにできるかもしれないのではとのご意見をいただきました。アクセス方法などもマニュアルを作り周知するというのもよいかもしれないと思いました。

#### 2) 奉仕事業の運営方法

おなかを空かせている子供が居たらご飯を与える、これはボランティアとして当たり前の奉仕活動です。ロータリーの精神は、またおなかを減らさないように「魚の釣り方も教える」こういったロータリーの啓蒙活動は素晴らしいと思います。ただ、今は「魚釣りのやり方を教える」と自分たちに危険が生じます。とのご意見をいただいた中で休会中の例会、事業の中止等が出る剰余金について寄付等の支援を行うべきとのご意見が大勢でした。寄付先としては

- ・コロナウイルス関連 地域医療機関（感染指定病院）
- ・業界支援策への援助（商工会議所のクラウドファンディング）

が複数の方からいただきました。

### 橙グループ

グループ幹事：浅野康 副幹事：松本崇  
小笠原勲／鳥海衡一／柳川正人／関口幸恵／飯塚和夫／  
葛西 敬／柳川信男／堀 康紀／武澤武彦

今回の新型コロナ感染拡大防止による政府による緊急事態宣言発出により、例会短縮開催ならびに中止に際し、橙グループにおけるお互いのご意見を集約させていただきました。

このような国難を乗り越えるために、クラブメンバーは自身の仕事や事業において、何が一番重要なのかを考えて行動すべきであり、ロータリアンとしての行動は職業奉仕など、ロータリーの基本理念に基づいて行動をすることが必要だと思えます。

例会の開催判断は、政府によるリスクレベルを考慮し、例会中止、短縮開催、通常開催を会長・幹事に一任します。そして、R1や地区からの情報を素早く収集して、どのような運営方法を理事役員で決定しクラブ対処方針等を会員に伝えることが重要かと思われまます。

短縮開催は、開始時間を13時から13時30分とし、感染拡大防止対策として危険性が高い食事を中止、また、円卓ではなくスクール形式に着座し、人との間隔を2メートル（最低1メートル）空け、全員マスク着用で、会長の時間、幹事報告、委員会報告等と可能な卓話（入会記念卓話等）を拝聴する。今まで通りの運営では感染拡大防止にはならず、基礎疾患をお持ちの方や高齢の会員にとっては感染リスクを抱えることになる可能性があります。

今回のように、例会開催中止を判断する場合は、会長から状況報告のメール配信だけでなく、委員会報告や、会員からの情報を掲載するなどの簡単な週報を作成し送付することでクラブとしての一体感を作りだせるのではないかと思います。休会の判断は、会員の家族や会社に不安を抱えながら、またロータリーという奉仕団体としての社会的立場があるため、不安が解消するまで休会ならびにオンライン例会で良いと思います。

休会による予算は、寄付（例えばコロナ対応の最前線に向き合った医療機関や高齢者施設）することで、会費

の引き下げではなく、ロータリーとして奉仕活動への使途がよいのではないのでしょうか。

今後このような事態（緊急事態宣言による外出自粛要請や災害時等）におけるロータリー運営で準備が必要とされることとして、SNS、LINEによる会員の状況が確認の出来るコミュニケーションツールのシステム化。その他、緊急時における対応ルール作成、使われなくなった予算の活用についての規定作成が必要かと思われます。SkypeやZOOMによるオンライン開催も検討の余地がありますが、各会員のオンライン環境等を踏まえると整備に負荷、負担が生じるため厳しいかと思われます。

最後に、このような緊急事態においても、できる限り会員の気持ち下がらないような創意工夫により、会員みなさんが協力することが、平塚クラブの在り方だと思います

## 黄グループ

グループ幹事：永井太郎 副幹事：近藤憲司  
 升水一義／杉山昌行／柏手 茂／清水孝一／鈴木忠治／  
 米山俊二／小林 誠／上野雅俊／今村佳広

・現下のコロナウィルス感染予防の中で、すでにそれを想定し、次の流行期に備え、事業継続を検討されている企業、会員は、今回の経験を経て、個人、また企業人として分かったことは、「これまでのやり方、これまでの常識に囚われては、この大きな困難は乗り越えられない」ということ。事業を継続的に運営していくためには、これまでやらなかった取り組みや、まったく新しい取り組みに、果敢に挑戦していくことが必要。

・ロータリークラブの活動においても、これまでは「現地において」「実際に顔を合わせながら」親睦や奉仕の活動を進めてきたが、今後は大きな転換（新たな方法にチャレンジ）していくべきはず。

・具体的には、例会についても、集合形式ではなく、状況に応じ、ICTを活用した「リモート例会」などの取り組みを始めることにより、これまでは「オンサイト」では出席が難しかった会員でも、リモートでの参加が可能となり、結果として出席率や、会員同士の交流が、より活性化できるはず。

・奉仕活動においても、現地にて実施するイベント等は残しつつも、「場所に依らない奉仕活動」のあり方は、議論し、積極的に実践していくべき。例えば、奨学生に対するレクチャーや、月々の報告などは、若者が強いデジタル機器とネットワークを活用することにより、これまであまり関連性の薄かった会員にも、気軽に活動を知っていただく良い機会となるはず。

・例会が不定期になる可能性があるためSNSを活用し常に連絡や繋がりが保てるようにする仕組みが必要。まずは「これまで取り組まなかったやり方、これまでになかった新しいやり方」を会員から募り、この全世界的な影響となっている現状を、「チャレンジするためのきっかけ」と捉え、実践していく必要がある。

・奉仕活動は本来、行動で応えるのが良いが、この時期は金銭的奉仕もあるはず。今期の例会や事業が行えなかったことで予算が余るのであれば退会防止の観点から来期の会費は前期分を免除したりして年会費を半額にすることも検討の余地があると感じる。

・緊急事態の場合には、やはり①生命の危険からの回避、②事業継続のための行動、③被害最小にするための努力などについて準備や見通しをつけることが先決。これらができる、RC活動という事になるはず。

・今回は長期化したが、会長レーターがメールで配信されたり、誕生祝、結婚祝いの対象者がコメントをメールや委員会単位のLINEで状況を知ることができたりすることができたことは大変意義。

・奉仕事業については、相手があることであり先方との調整がどうなるかで決まることだが緊急事態の状況に対して計画にはない地域のための奉仕活動の検討などを行うことができれば良かったかもしれない。緊急事態宣言下では、集まることができず人と人の物理的距離をとることなど、人と人のつながりをどうするかという事に尽きる。

・例会については、基本的にE-Club方式を採用し、HPで会長メッセージ、幹事報告、委員会報告、その他報告を行い、質疑も出来るのが理想。開催は毎週実施とせず、隔週でもよい。但しE-Clubのような「一定時間とどまらぬと出席と見做さない」という縛りは付けないほうが望ましい。

・ネット環境が非設置、コンピューターリテラシーがない会員は月報をハードコピーで送付することでカバーできる。最も簡単なのは、会長、幹事がHP上で動画発信することだが、一方通行となるデメリットもある。

・奉仕事業については、集会は難しいので事実上「汗をかかずに」奉仕事業は出来ない。したがって、事業延期が中止とせざるを得ない。なお、一連の変革によって浮く予算は、RI、乃至米山奨学生制度等に寄付する。状況に困っては、翌期に繰り延べるのも一計。

・今回のような緊急事態では、個別のクラブで奉仕事業をするのではなく、第八グループとして活動するのも一考。

・自身の所属企業は、緊急事態宣言解除後は、お客様訪問についてお客様やご家族の同意があれば、訪問することは可能なものの、社内外のイベント・懇親会・会食等は当面自粛で、オンラインで可能なものは極力オンラインでという方向感。顔と膝をつきあわせてこそではあるが、当面は、例会はマスク着用で、時間を短縮する。2週間または月に一度とし、昼食を伴わない例会をする等はどうかと思料。

・社会奉仕については、各会員から身近に困っていることを意見集約し、まず仲間内で助け合えることを検討・実施してみてもどうか。完全に活動再開とならない中、まずは一つずつ出来ることからが良いと考える。

・様々な緊急事態があるのでカテゴリー別に判断が必

要だが、自クラブだけでなく、8グループ内、他団体との協力体制を構築し、そこで意見会議などですべく対応ができれば理想的。

・それを実現させるためにも日頃からクラブBCPの仕組みを運営に入れていくことが大切。同時に、zoom等を利用して活動を止めないことも必要だし、共通してスピード感や危機感、無関心ではなく関心をもった活動が必要。

・例会については、Eクラブ方式を採用しホームページ上での例会を開催して、各自会員は好きな時間帯に閲覧し例会に参加し情報共有を行い、例会内容を確認して、感想や意見などを投稿できるシステムを構築するのが理想的。意見交換がホームページ上で出来ればコミュニケーションをはかることも出来るはず。

・従来のクラブ例会に変わるオンライン例会、Web会議ツールであるZoom等を駆使することでオンラインミーティングにチャレンジできるはず。おそらくITに強い会員がいるはず。

・SNSを使った情報交換や交流、HPへの会長、幹事の発信、会員の声の掲載、あるいは食事なし、弁当配布の短時間例会の開催、小グループでの分散例会等、今までの例会に変わる会合の方法を考えてみるのが大事だと述べ何か1つでもチャレンジする事が大切。

・クラブには「平塚ロータリー基金」があり、規則第4条に基金から生じた果実により、平塚市地域の教育、文化、産業の向上促進をするための事業に対して「顕彰」を行うとある。新型コロナウイルス感染対策のために為に頑張っている医療関係者や医療物資を支援するために支出できる仕組みを創設してはと感じる。

## 青グループ

グループ幹事：渡邊美和 副幹事：長島誠人  
小泉芳郎／升水富次郎／白石慎太郎／高橋建二／  
日坂泰之／瀬尾光俊／梅干野修司／平井敬規

### <第一部>

「緊急事態時におけるクラブのあり方～クラブ例会や奉仕事業の運営方法等～」

青グループでは今回の情報集会テーマ「緊急事態時におけるクラブのあり方～クラブ例会や奉仕事業の運営方法等～」について、メールにより意見を募り情報交換を致しましたのでご報告申し上げます。

緊急事態におけるクラブのあり方について、まずはどういう方法であっても例会を実行し、出席することが重要との意見が多くありました。週に一度顔を合わせて例会を行うことに勝るものはございませんが、クラブにとっても最も大切な交流を続けることこそ肝要であり、そこで話し合い人道的奉仕活動に繋げていく。

今後「大型台風」「地震」また「コロナ以外のウイルス」等々新たな非常事態時に備えてクラブとして「緊急事態対策委員会」を組織する、という意見もございました。新しい取り組みを一時的なものにすることなく緊急事態終息後もニューノーマル（新常态）を受け入れた改革が必要と考えます。

クラブ例会については、zoom、line等のテレビ電話などでオンライン例会を開催するという意見が多数聞かれました。他に幹部のみ例会を開催し発信、卓話を配信またはHP掲載、諸活動の配信、会員同士ホットラインやSNSを通じた交流、スマイルの電子マネー化等いろいろな意見が聞かれました。中には例会で残ってしまった食事を“フードシェア”アプリを使い、スマイルとする等WITHコロナ時代これまで以上にESGを意識させられるような意見もありました。

奉仕事業の運営方法については、直接ふれあうことが出来ない状況では、募金・寄贈・オンラインによる活動が主になるという意見が多く寄せられました。通信手段が途絶えてしまう緊急事態の場合は、近くのメンバーと少数での連携、それも難しければ個人でも奉仕活動を続けること。他には金銭のみではなくロータリーならではの情報を活かす、医療機関へ資材寄付を行う、クラウドファンディングを用いて協力するとの意見がありました。

以上、会員同士の交流を持ち、奉仕の精神を忘れずに行動するためにどんな手法が考えられるか、積極的にご意見を頂きました。最後に今回のコロナ禍に於いて異例の事態の中、会の運営にご尽力された方々に感謝いたします。

### <第二部>

#### ■緊急事態におけるクラブのあり方

・緊急事態宣言を受け様々な「要請」という規制がかり、「自粛」という規制の中、どうやって事業活動を継続するかと課題が満載。(平井さん)

・「緊急事態宣言」下、実際のところロータリークラブとして何も出来ないという事に気付かされました。今後「大型台風」「地震」また「コロナ以外のウイルス」等々これからの非常事態時に備えてクラブとしての「緊急事態対策委員会」のようなものを組織図に入れ込み、当該年度の「クラブ理事役員会」が兼任する。また、決定権は当該年度の「会長」若しくは「緊急事態対策委員会」に一任する。(高橋 建二さん)

・経営者の集団であるロータリークラブメンバー一人一人が互いに情報交換し、生き延びるすべを見つけ出す機会ではないでしょうか？(平井さん)

・今回のコロナ禍を一度だけの過ぎたことにせず、これを機に始まった新しい取り組みにさらにチャレンジし、継続できるものは継続することが必要かと思えます。(平井さん)

・“ロータリークラブの義務”の大きな柱は、「週1回、定例の日時に例会を開催」し、「出席すること」(長嶋さん)。クラブにとって最も大事な会員との交流(梅干野さん)

・この義務を果たすことで親睦を深め、そこで得た気付きや刺激が道徳心を向上させ、人道的奉仕活動に繋がっていると私は実感しています。よって、今回のよう

な緊急事態時においてもこの義務が果たせる様、新たな運営方法を構築すべきだと考えます。もっと言いますと、緊急事態時関係なくニューノーマル（新常态）を受け入れた改革も必要だと思います。（長嶋さん）

- ・テーマは「リアル×デジタル（オンライン）の融合」（長嶋さん）
- ・クラブ例会
- ・zoom、line等のテレビ電話などでオンライン例会を開催する（日坂さん）（平井さん）（長嶋さん）（梅干野さん）（渡邊）
- ・映像なし）電話会議を用いて集会を行う（渡邊）
- ・幹部のみ例会開催し配信する（毎月1度程度）（日坂さん）
- ・会員の皆様の状況等を確認し会員同士で助け合う（日坂さん）
- ・会員ホットラインの開通（売上や物資の不足状況など相談できる）（日坂さん）
- ・通常時の例会でもオンライン出席を可とする。（長嶋さん）（平井さん）
- ・卓話のネット配信。（長嶋さん）
- ・ホームページを活用して会長メッセージ、卓話など動画配信して都合の良いときに見る。（梅干野さん）
- ・奉仕活動、友好クラブ・姉妹クラブ訪問、研修会、各年間行事のオンライン参加（アバターによる参加）（長嶋さん）
- ・奉仕活動、友好クラブ・姉妹クラブ訪問、研修会、各年間行事のネット配信。（長嶋さん）
- ・例会で残ってしまう食事を“フードシェア”アプリを使い、スマイルへ。（長嶋さん）
- ・“スマイル”の電子マネー化。コメントもデジタル活用。（欠席時もスマイルしやすい環境）（長嶋さん）
- ・SNSで共有の場を作り意見交換を行う。（渡邊）
- ・限定して当地域のみ集会を開きづらい状況の場合であれば、近隣の集会可能な地域に一時的に場所を移す。（渡邊）

#### ■奉仕事業の運営方法

- ・奉仕活動としては直接ふれあうことが出来ない状況では、募金・寄贈・オンラインによる活動になるかと思えます。（瀬尾さん）
- ・通信手段が途絶えてしまう緊急事態の場合は、職場や住まいが近くのメンバーとの連携。（瀬尾さん）
- ・今回の緊急事態では、人と接触することができないので通常の奉仕活動は極めて制限があります。そのような中での奉仕活動は、金銭的な寄付などもそうですが、様々な人脈があるロータリークラブであるからこそ、情報という奉仕活動はどうでしょうか？援助を必要としている人、物、などの情報の集約とその物資などを手配するネットワークなどお金には代えられない情報という財産を活かすチャンスではないでしょうか？（平井さん）
- ・あらかじめ奉仕事業所（寄付等の先）を決めておき緊急事態の時には寄付を募り配布したり活動出来る人はボランティアする（日坂さん）
- ・予めBCP対応として少人数部隊を率いるリーダーを選出。（多数で集まるより少人数のほうが動きやすいのではと考えたため）（渡邊）
- ・奉仕事業としては、今回新型コロナウイルスで苦労している医療関係への資材寄付等クラブでできるこ

と、影響を受けている事業所へクラウドファンディングへの協力等各自でできることを実施する。（梅干野さん）

・リーダー中心に動ける人材のみで連絡を取り合い施策を実行。緊急事態の間実行にあたってはリーダーにある程度権限を委譲（渡邊）

・少人数で集まることも困難な場合は個人で。方針、施策が決まったらメール等で連絡、実行は各個人が出来る範囲で（渡邊）。

最後に今回のコロナ禍に於いて異例の事態の中、会の運営にご尽力された方々に感謝いたします。（平井さん）

## 紫グループ

グループ幹事：又城雅弘 副幹事：相山洋明  
常盤卓嗣／片野之万／三荒弘道／青山紀美代／  
前田孝平／元吉裕員／米山範明／鈴木成一

#### ■クラブ例会について

リモートによるオンライン例会を考えて行くべきだとのご意見が大半を占めました。その場合、会社業務等で慣れている方が中心になり不慣れな方に対しての講習等、フォローが必要になってくると思います、只あまり負担になってもいけないのでその環境整備を業者に委託するののも一つの方法だと思えます。

オンラインの場合には出欠の扱いをどのようにするのか、会費はどうしていくのか等を明確にしていく必要があると思えます。

#### ■奉仕事業の運営方法について（様々な意見が出ましたので個々にのせます）

不要不急の奉仕は保留として選択と集中をもって奉仕する。

今回のような場合に備え医療物資等の集約や寄付などの対応が迅速にできる体制の構築が必要になってくる。

人が集まる事業は当面、難しくなるのでメディアやSNSを使った情報発信をしてみてくださいか？

今回のコロナ禍に限らず地震や台風等の自然災害も想定されるので危機管理委員会の創設を考えてみてはどうでしょうか。

